

2026年3月期第1四半期

IR決算説明会 主な質疑

- Q1. 営業利益に対し、米国関税影響は第1Qで35億円とのことだが、この数字はグロスの数字か、それとも価格転嫁も含めネットした数字か。
- 通期での影響額はどのくらいと想定しているのか教えてほしい。
- A1. 第1Q実績の35億円はネットの数字である。ただし時期ずれなどにより、第2Q以降に影響が出る部分もある。
- 通期の関税影響について、粗い試算ではあるが、グロスで500億円程度と考えている。それに対しては価格転嫁、改善等で対策していく予定であるが、まだ不透明な部分もあるため第2Q以降の計画には関税影響を入れていない。
- Q2. 通期の関税影響が500億円程度という試算の前提は、日米相互関税15%、自動車関税の追加12.5%ということでしょうか。
- A2. 税率確定が、決算発表直前であるのに加え、日本から米国だけでなく、カナダやメキシコ、中国から米国など様々なルートがあるため、それぞれを精緻に計算するのは困難である。粗い計算での積み上げと理解いただきたい。
- Q3. 第1Q営業利益の増減要因のうち、子会社株式売却益が入っているが、期初にも織り込んでいたのか。産業車両事業で認識していると考えてよいのか。
- A3. 通期営業利益予想における増減要因の売上影響170億円に期初から織り込んでおり、産業車両事業で認識している。
- Q4. 自動車事業の第1Q営業利益が前年度比で弱いだが、全体の進捗としてはどう考えているか。
- A4. 全体的には概ね計画通りに進捗しているが、自動車事業は第1Qにおいてコンプレッサー事業で欧州カーメーカーを中心に伸び悩み、中国向けも弱かった。産業車両事業は、サービス・バリューチェーンが売上・利益を支えている。第1Qは期初の為替前提より円安になったため、その部分のプラスもあり、全体的に見れば営業利益は計画線で推移すると考えている。

Q5. フォークリフト市場の状況について教えてほしい。

A5. フォークリフト市場全体では、カレンダーイヤーで見て昨年並みと見込んでおり、
当社の受注についても同様と考えている。

具体的にネガティブなデータが出ているわけではないが、米国関税から来るインフレ懸念や
欧州経済悪化のリスクは考えられる。

Q6. 物流ソリューションの状況について教えてほしい。

A6. 第1Qの物流ソリューション受注額1,753億円は、2024年度第4Q受注額を下回るが、
足元の需要は底堅く、市場は堅調に推移しているとしている。

一方収益性については、第1Q時点では回復に至らず、著しい改善は見られていない。

以上